

多用途機能擁壁

バリアブロック



積みブロック



L型・重力式・もたれ式・積みブロック・ウイング・コーナーなど形状が
変化する常設 / 仮設が可能な土留めブロック

特長

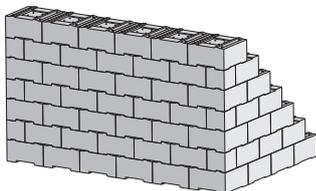
- ① 積み上げと連結ピンの設置だけの簡単施工です。
- ② 様々な形での施工が可能です。
- ③ 取り外し移動可能な仮設土留めとして使用できます。



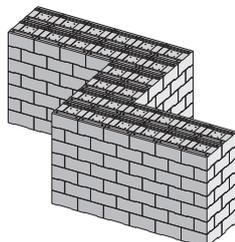
参考文献

- ・「道路土工・擁壁工指針平成 24 年度版」(公社)日本道路協会
- ・「道路橋示方書・同解説IV下部構造編」(公社)日本道路協会
- ・「耐候性大型土のう積層工法」設計・施工マニュアル」(一財)土木研究センター

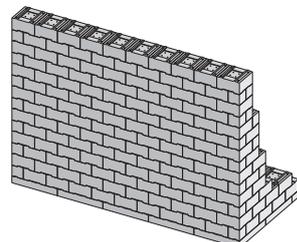
築造バリエーション



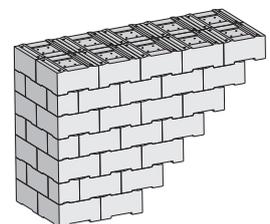
重力式擁壁



コーナー擁壁

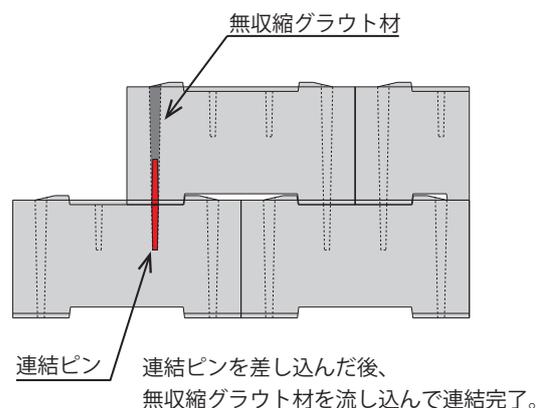
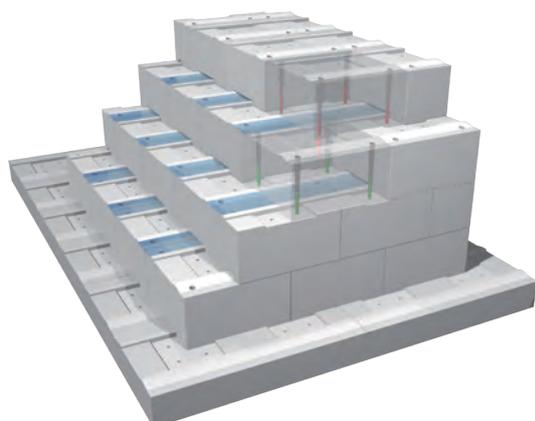


L型擁壁



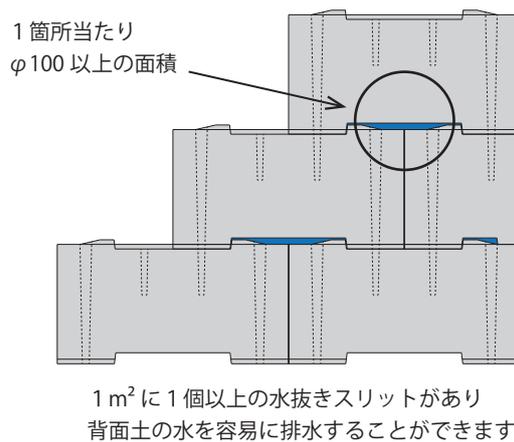
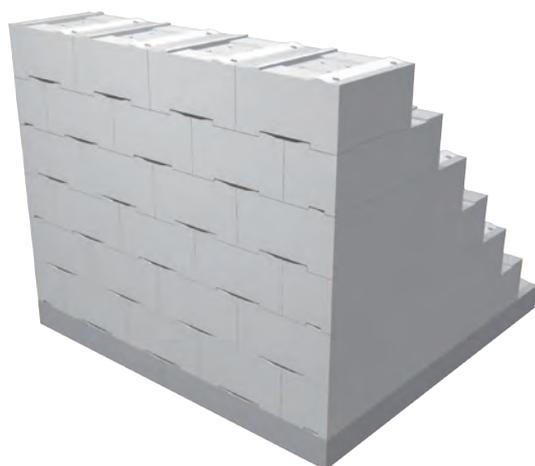
ウイング擁壁

常設施工



- ① 製品を積み上げることにより、土留め擁壁としての効果があります。
- ② 連結ピンにより積み段数・延長がある場合でも全体が一体化となります。
- ③ 積み方によって現場にあった様々な形での施工ができます。

仮設施工



- ① 製品を積み上げることにより、土留め擁壁としての効果があります。
- ② 必要が無くなった場合の撤去が可能で、繰り返し使うことができます。

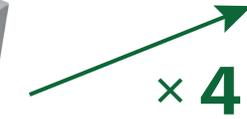
静的載荷実験および耐衝撃性実証実験

実物による静的荷重実験により、常設施工・仮設施工で使用した場合の確認を行い、製品及び連結ボルトの安全性を確認しております。また、重錘を衝突させ、積み上げた製品が一体であること、また表面の破壊状況の確認を行いました。



製品展開

使用する現場・用途に応じて製品1個当たりの大きさが異なるレギュラータイプ・ラージタイプをラインナップしています。



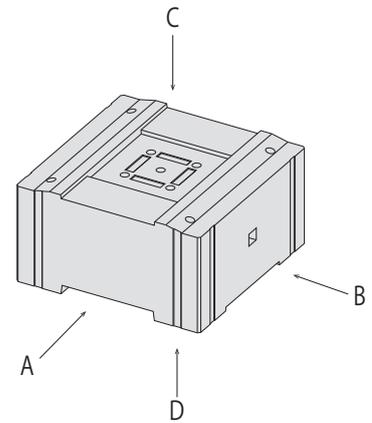
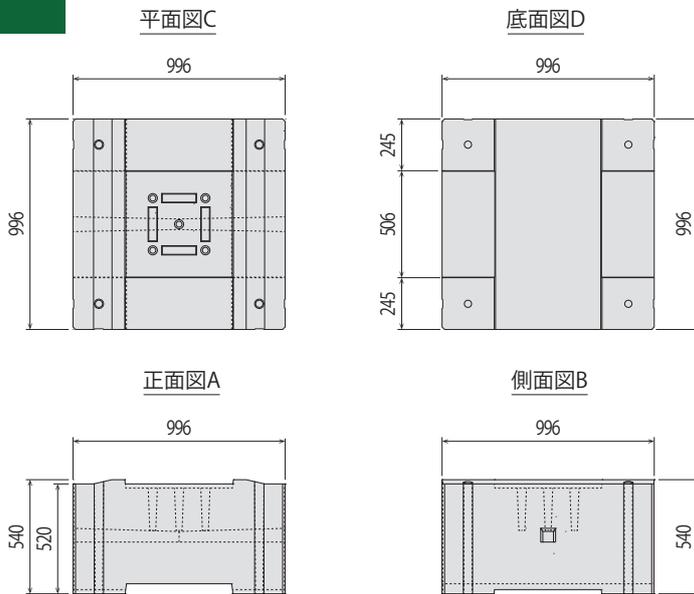
レギュラータイプ



ラージタイプ

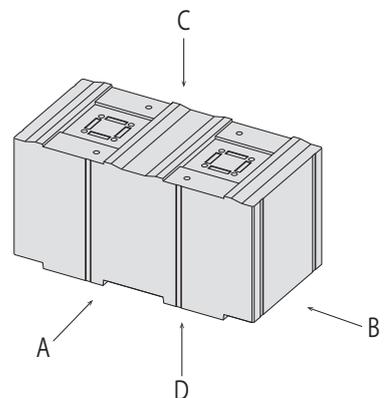
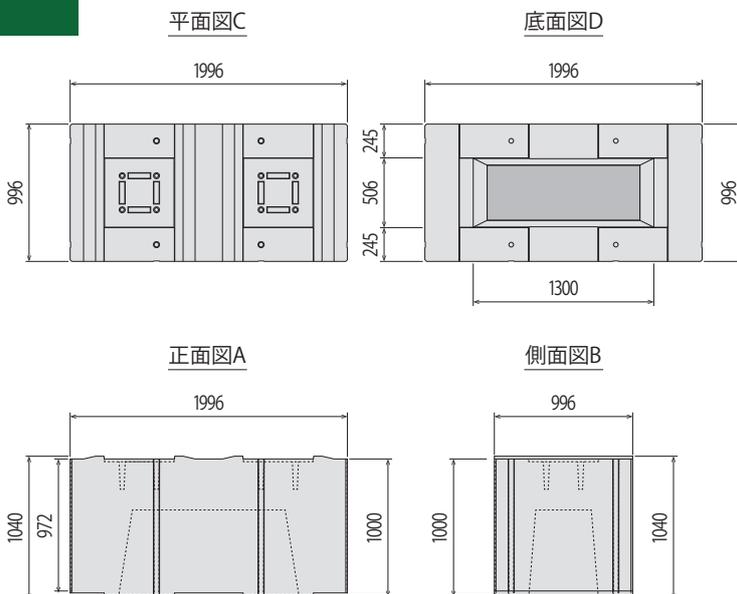
形状寸法図

レギュラー タイプ



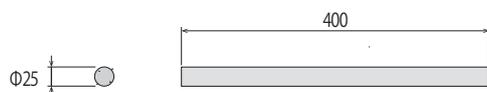
呼び名	参考重量(kg)
バリアブロックR(標準)	1,160
バリアブロックR(1/2)	580
バリアブロックR(1/4)	290

ラージ タイプ



呼び名	参考重量(kg)
バリアブロックL(標準)	3,740

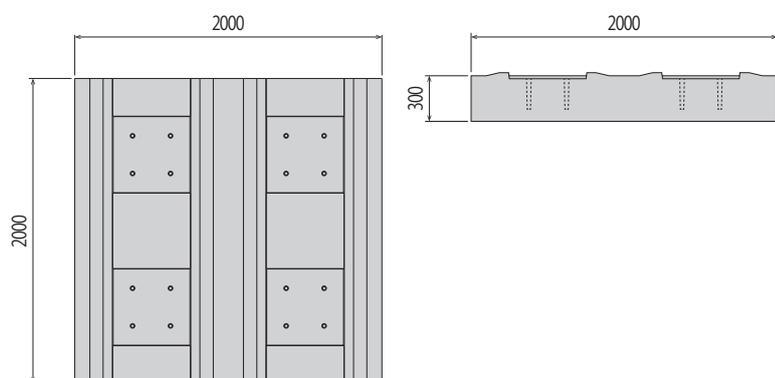
連結ピン



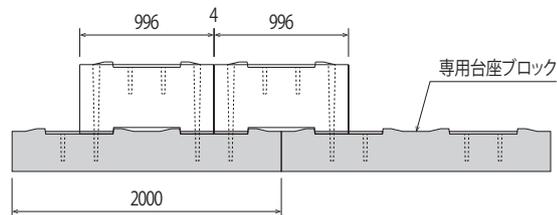
材 質	SS400
降伏強度	235N/mm ²
許容引張応力度	140N/mm ²
許容せん断応力度	121N/mm ²

専用台座ブロック

専用台座ブロックを使用することにより正確にバリアブロックを積み上げ施工することが可能となります。



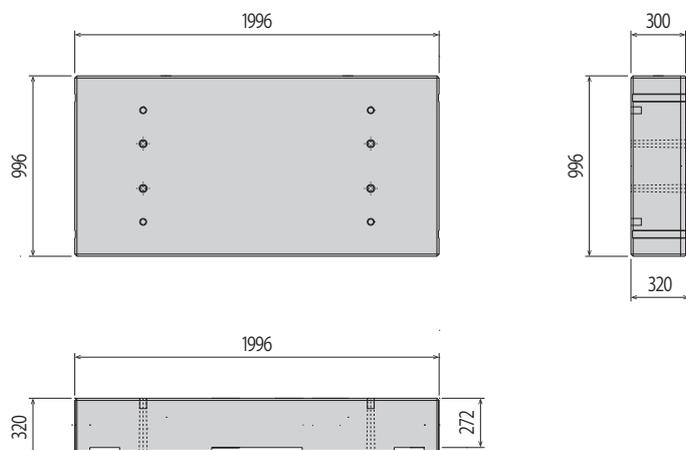
呼び名	参考重量(kg)
専用台座ブロック(標準)	2,870
専用台座ブロック(1/2)	1,435



製品間の隙間(余裕幅)は4mmあり直接隣り合う製品同士とは接触しません。専用台座ブロックを使用することにより正確に製品を据え付けることができます。

専用天端ブロック

専用天端ブロックを使用することによりバリアブロック上面を滑面に仕上げることができます。



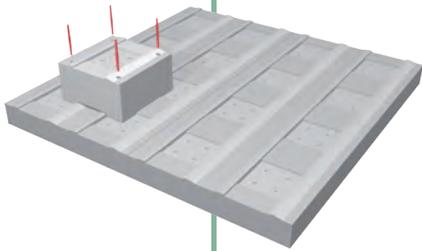
呼び名	参考重量(kg)
専用天端ブロック	1,400

施工手順

- ① 専用台座ブロックを並べ据付ける。



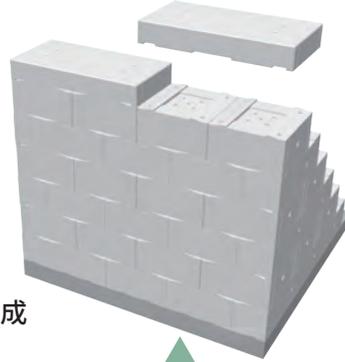
- ② 1段目のブロックを据え付けた後、天端の挿入孔に連結ピンを差し込み、無収縮グラウト材を流し込む。



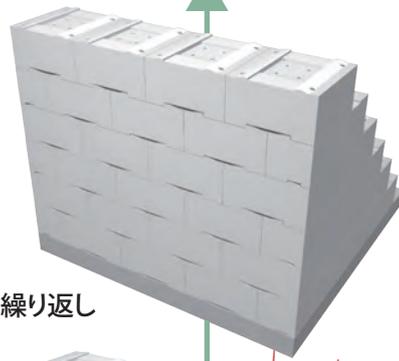
- ③ 通常製品、端部製品、隅部製品をそれぞれ据え付ける。



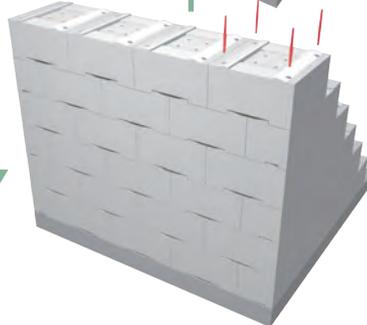
- ⑥ オプション 専用天端ブロックを設置する。



- ⑤ 完成



- ④ 繰り返し



施工状況



- ① 専用台座ブロックの据付



- ② 1段目のバリアブロックの据え付け



- ③ 無収縮グラウト材施工状況



- ④ 2段目のバリアブロックの据え付け



コーナー擁壁 ラフテレーンクレーンの進入できない現場であったため、バリアブロックをクレーン機能付きのバックホウで施工。



重力式擁壁 弊社工場内での仮設施工。施工後分解した後、再度組み立てをし、仮設後の再利用が可能であることを確認した。